

2 健苗育成のポイント

【発芽の揃った催芽種を準備しよう】

① 種子

採種ほ産の種子を用い
未消毒種子は必ず適切に
種子消毒を行いましょ

② 浸種

R5年産の種子は休眠深い！
浸種の水温は11～12℃
期間は7～9日間に延長

③ 催芽

30～32℃で20時間程度
催芽(芽きり)は
ハト胸状～2mm程度



写真1 温湯消毒済み種子



写真2 育苗ハウスを利用した浸種
(シルバーシートで直射日光をやわらげ、
水温を均一に保っている)

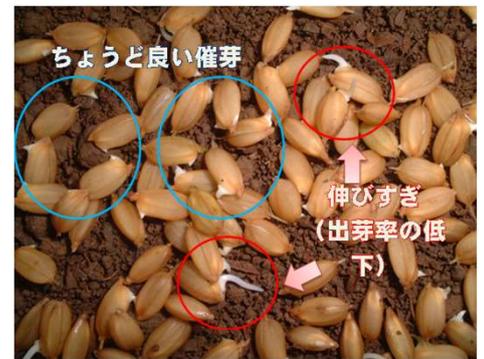


写真3 催芽の状態

【温かい置床を準備しよう】

育苗ハウスの置床を十分乾燥しないまま耕起作業を行うと、
整地が悪く箱が床と密着しないため、生育は不揃いとなります。
また、地温は低く乾きづらいため、生育が悪く病害は発生しやすくなります(写真4)。置床を十分乾かし、地温が
上昇したことを確認してから育苗箱を設置しましょう。



写真4 生育不良だった育苗後の置床
(苗の不揃い、発根不良、枯死)

【作業は計画的に行いましょう】

表1 育苗様式別の苗形質に関する目安

項目	単位	既存の育苗様式			高密度播種	
		稚苗 箱マット	中苗 箱マット	成苗 ポット	高密短 箱マット	密播中苗 箱マット
草丈	cm	8～12	10～12	10～13	10～12	10～12
葉数	葉	2.0～2.5	3.1以上	3.6以上	1.8以上	2.6以上
第1 鞘高	cm	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下
乾物重	g	1.0以上	2.0以上	3.0以上	1.0以上	1.6以上
移植早限※1	℃	11.5	12	11.5	— ※2	— ※2
移植晩限		5月25日	5月31日	6月5日	中苗に準ずる	中苗に準ずる
m ² 株数	株	25以上	25以上	22～25	25以上	25以上
一株苗数	本	4～5	3～5	2～4	3～5	3～5

※1 移植早限は移植後5日間の平均気温で示す
※2 設定がない

3 早期異常出穂を防ぐポイント

早期異常出穂(不時出穂)とは

7月上・中旬に主幹だけが先走り、異常に早く出穂する現象。早期異常出穂した稲は穂揃いが極端に悪化し、収量・品質ともに大きく低下する(写真5)。

早期異常出穂の要因

1. 苗床における、育苗期間後半(2.5葉期以降)の高温(25℃以上)に遭遇すると発生しやすい。
2. 移植適期を過ぎたことによる苗の老化。
3. 品種により差があり、早生品種や感温性の高い品種で発生しやすい(表2)。



写真5 早期異常出穂した穂の形態的特徴
(道総研パンフレットより)

対策

1. 近年育苗期間の気温は高い傾向で、ハウス内温度が上昇しやすい(図1)。育苗ハウスの温度(苗の葉先付近)が25℃を超えないよう温度管理に注意する。
2. 苗の葉数が目標に達する日数は短くなっている。30日程度で移植できる作業計画を立てる。
3. 移植時苗形質(表2)に達した時点で、なるべく苗が若い状態で移植することを心掛ける。

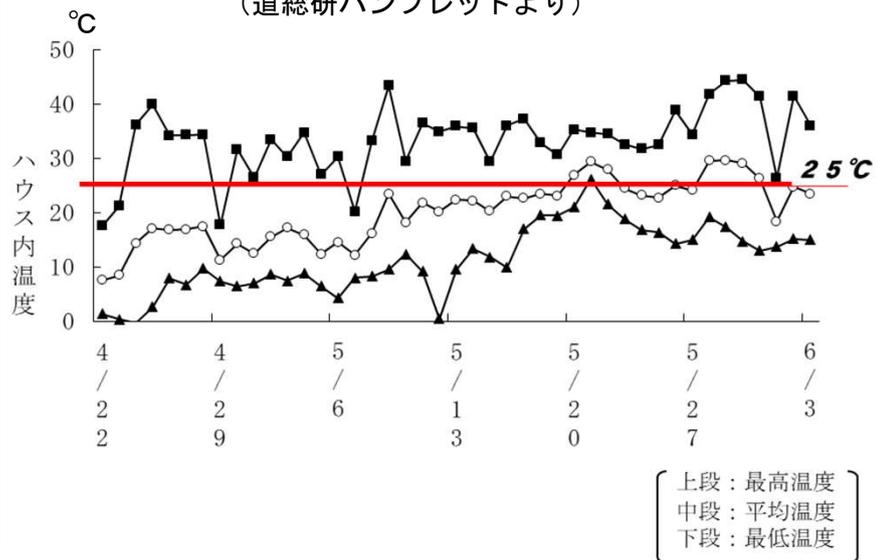


図1 育苗期間のハウス内温度の推移(現地事例)

表2 早期異常出穂のリスクを抑制するための成苗ポット苗移植時苗形質と育苗管理の留意点(抜粋)

移植時 苗形質	草丈	10~13cm ¹⁾	
	乾物重	3.0~4.5g/100本 ¹⁾	
	目標葉数 ²⁾	ゆめぴりか (異常出穂リスク:中)	3.6~4.3葉以内
		ななつぼし (異常出穂リスク:高)	3.6~4.0葉以内
育苗管理の 留意点	育苗温度	簡易有効積算温度 ³⁾	400℃以内
	管理	2.5葉期以降は25℃以上としない。	
	育苗日数 ⁴⁾	中生品種は30~35日	

1) 北海道水稲機械移植栽培基準(成苗ポット)(昭和61年指導参考事項)に準拠
 2) 早期異常出穂を抑制するための成苗ポット苗の目標葉数の範囲。
 3) 有効温度 = 60.1/(1.9+(日最高最低平均気温/21.8)^{-4.2})の積算。簡易有効積算気温を利用した成苗ポット育苗における育苗日数の適正化(平成21年度指導参考事項)に準拠。
 4) 但し、各品種の目標葉数の範囲を遵守し、根鉢の強度を確保すること。

(執筆: 北海道農政部生産振興局技術普及課 主任普及指導員 石岡 康彦)